

## 第 8 回 品質保証分科会 議事録

1. 日 時 平成 15 年 9 月 29 日 ( 月 ) 13:30 ~ 16:00

2. 場 所 日本電気協会 4 階 C, D 会議室

3. 出席者 ( 敬称略, 五十音順 )

出席委員 : 飯塚分科会長 ( 東京大学 ), 唐澤副分科会長 ( 東京電力 ), 宮口幹事 ( 石川島播磨重工業 ), 大塚 ( 関西電力 ), 久保田 ( 核燃料サイクル開発機構 ), 黒川 ( 発電設備技術検査協会 ), 佐々木 ( 中国電力 ), 佐藤 ( 東京商船大学 ), 下重 ( グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン ), 白石 ( 三菱電機 ), 鈴木 ( 日立製作所 ), 平 ( 日本製鋼所 ), 高橋 ( 富士電機 ), 谷本 ( 九州電力 ), 中世古 ( 中部電力 ), 中野 ( 原子力発電技術機構 ), 中村 ( 北陸電力 ), 松永 ( 東芝 ), 松村 ( 北海道電力 ), 三角 ( 三菱重工業 ), 結城 ( 原子力安全・保安院 ), 渡邊 ( 東京電力 )

代理委員 : 植松 ( 三井造船 長崎代理 ), 小川 ( NS ネット イ藤代理 ), 岡村 ( 電源開発 川尻代理 ), 辻本 ( 日本原子力発電 濱田代理 ), 平山 ( 東北電力 村上代理 ), 松井 ( 原子力安全・保安院 清野代理 ), 吉井 ( 日本原燃 吉村代理 ),

常時参加者 : 穴原 ( 東京電力 )

オブザーバ : 伊東 ( 三菱原子燃料 ), 古賀 ( 原子燃料工業 ), 児玉 ( 原子力安全・保安院 ), 近藤 ( 東京電力 ), 高田 ( 原子力安全委員会事務局 ), 南 ( 原子力安全委員会事務局 ), 宮田 ( 原子力安全・保安院 ), 米田 ( 原子燃料工業 )

事務局 : 浅井, 堀江, 上山, 国則 ( 日本電気協会 )

4. 配付資料

資料 No.8-1 第 7 回品質保証分科会 議事録 ( 案 )

資料 No.8-2 JEAC4111 原子力発電所における安全のための品質保証規程制定案

資料 No.8-2-1 同上 公衆審査意見対応

資料 No.8-2-2 同上 公衆審査意見対応 ( 第 12 回原子力規格委員会用 )

資料 No.8-2-3 同上 公衆審査版追加修正箇所

資料 No.8-2-4 規制要求事項と JEAC4111 - 2003 の比較

資料 No.8-3 JEAG4121 原子力発電所における安全のための品質保証指針 ( 運転段階 ) 制定案

資料 No.8-3-1 同上 品質保証分科会書面投票結果

資料 No.8-3-2 同上 品質保証分科会書面投票意見対応

## 5. 議事

### (1) 会議定足数の確認

委員総数の 3 分の 2 以上の出席で、会議開催条件を満たしていることが確認された。

### (2) 議事次第と配付資料の確認

当日の議事次第と配布資料が確認された。

### (3) 第 7 回品質保証分科会議事録（案）について（審議）

事前にメールで配信されていた、資料 No.8-1 の第 7 回品質保証分科会議事録（案）の内容が、全員の賛成で承認された。

### (4) JEAC4111 原子力発電所における安全のための品質保証規程制定案について

渡邊委員( 品質保証合同作業会主査 )より資料 No.8-2 ,8-2-1 ~ 8-2-4 に基づき制定案、同公衆審査意見対応、同公衆審査版追加修正箇所、規制要求事項と JEAC4111 - 2003 の比較が紹介された。資料については、以下に主要な内容を示す、当日の議論の結果を踏まえ必要な修正を行った上で、次回 9 月 30 日の原子力規格委員会に提案することで進めてはどうかと諮られ、挙手による決議の結果全会一致で承認された。

資料に関する主な議論、コメントは以下のとおり。

#### (4-1) No.8-2-1 公衆審査意見対応について

- ・ No.1-1 のコメントが出された理由として、規程内容の情報不足の可能性が考えられたが、最終の版にはコメントを反映した必要な情報が含まれており、今の内容でよい。

#### (4-2) No.8-2-3 公衆審査版追加修正箇所について

- ・ コメント No.1 に関しては、現在のタイトルでも十分目的は明確である上、「確保」を入れると「行為」のみが対象となり意味がより限定されてしまうこと、及び、タイトルを変更すると本文との Integrity が落ちることから、タイトルは今のままとするが、議論の経緯は記録に残すこととする。
- ・ コメント No.3 の回答欄は IAEA を Refer しない表現に変更し、理由・根拠欄に IAEA を Refer した [ 解説 3.1 ] の内容を記載する。
- ・ コメント No.10 は、ISO 原文で言う製品合否判定基準は「検証、妥当性確認、監視、検査及び試験活動」すべての合否判定基準であり、変更前の「・・・、並びにこれらの合否判定基準」のままとする。

(5) JEAG4121 原子力発電所における安全のための品質保証指針（運転段階）制定案について

大塚委員（品質保証合同作業会委員）より資料 No.8-3,8-3-1,8-3-2 に基づき制定案，同分科会書面投票結果とその意見対応が紹介された。資料については，上記(4)に記載の JEAC4111 の修正を踏まえた修正を行った上で，次回 9 月 30 日の原子力規格委員会に提案することで進めてはどうかと諮られ，挙手による決議の結果全会一致で承認された。

(6) JEAC4111 の講習会について

下記のように各社のコメントを確認し，本件については 11 月中旬からまずは 2 回程度の実施を目途に，具体的な検討を継続することとした。

本件に関する主なコメントは以下のとおり。

- ・ 作成経緯を知らない者が内容を誤解する可能性もあり，正しい理解のためには，規格の作成作業を行った委員から直接講習することに意味が大きい。
- ・ 行間を含めて要求事項の目的を理解することが重要である。
- ・ 対象は ISO を理解している人としていたい。
- ・ シンポジウム形式も有効である。
- ・ 各事業者のニーズについて，確認した結果の概略は以下のとおり。
  - 社内的に ISO や JEAC の勉強が進んでおり，検討会・作業会に参加している社内メンバーが教育をすれば，講習会のニーズは低い。（3 社）
  - （ISO の浸透に関してはバラつきがあるが，）JEAC については品質保証の担当者の勉強段階であり，講習会を望む。（7 社）
  - 講習会は実施時期により参加を判断したい。（1 社）

(7) その他

次回分科会は，JEAG4121 の制定時期に合せ，概略 1 月中旬開催の予定であることが確認された。

以 上